

緊急声明

グリーンコープは、今般、国会に上程されている安全保障関連法案(安保法案)に絶対に反対です。

戦争は「人が人を殺し、そして、殺される毎日」を意味しています。そして、「人が人を殺し、そして、殺される毎日」は、いつ訪れるともれない「戦争が終わる日」まで続きます。ですから、戦争が始まる前には光り輝いて見えた正義や大義は、戦争が始まった途端に、それは跡形もなく消えうせ、痕跡さえ残ることはありません。何故なら、人間は、人を殺すことにも、人が殺されることにも、耐えられない生きものだからです。にもかかわらず、安倍首相はどうして、戦争がしたいのでしょうか。

私たちは、人間が「人が人を殺し、そして、殺される毎日」を過ごさねばならない、ということに正当化できる、そのような正義や大義はこの世に絶対に存在しない、と思います。だからこそ、戦争が始まる前には光り輝いて見えた正義や大義は、戦争が始まった途端に、跡形もなく消えうせ、その痕跡さえ残ることがないのです。私たちは、ですから、安倍首相のように、「積極的平和主義」などといって、戦争を絶対に追い求めるべきでないのです。

ところが、安倍首相は7月16日、安全保障関連法案(安保法案)を衆議院で強行可決しました。そして、安倍首相は強行可決した理由について、「日本を取り巻く安全保障環境が変化し、一層厳しさを増したため」と説明しています。しかも、その真意は「中国の脅威に備えないと、とんでもないことになる」ということだ、とされています。ですから、安倍首相の真意は、「存立危機事態」(わが国と密接な関係にある他国に対する武力攻撃が発生し、これによりわが国の存立が脅かされ、国民の生命、自由および幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある事態)には、「政府が総合的に判断」し、集団的自衛権を行使し、アメリカ軍やオーストラリア軍などとともに、中国と戦争をはじめることができるようになる、ということにあることは明らかです。

しかし、中国の人口は13億6千8百万人です。ですから、安倍首相は中国との戦争に備える(戸締りをしっかりする)ということですが、もし日本が中国との間で戦争をはじめるとした場合、安倍首相は一体、中国人を何人ほど殺せば、この戦争は「終わり」を迎えられると考えているのでしょうか。アメリカ軍やオーストラリア軍などとともに、中国人を1億人ほど殺すつもりなのでしょうか。そして、その場合、日本人はこの戦争で何人ほど殺されるつもりなのでしょうか。

私たちは、ですから、中国と絶対に戦争をはじめてはならないと思います。そして、中国だけでなく、日本はどことでも、絶対に戦争をはじめてはならないと考えます。何故なら、戦争は、人が人を殺し、そして、殺されることだからです。私たちはそして、もし本当に「日本を取り巻く安全保障環境が変化し、一層厳しさを増し」ているのであれば、日本は専守防衛に徹するべきだと思います。決して、集団的自衛権を行使し、アメリカ軍やオーストラリア軍などとともに、戦争をはじめべきではありません。

私たちはその意味において、今般、国会に上程されている安全保障関連法案(安保法案)に絶対に反対です。

以上、声明します。

2015年7月29日 グリーンコープ共同体 第九期第3回理事会

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

号外

■発行：グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL092(481)7923
FAX092(481)7876
http://www.greencoop.or.jp/

戦後70年となるこの夏、日本は戦争ができる国へと大きく舵を切ろうとしています。国会では安全保障関連法案が7月16日に衆議院を通過し、27日から参議院で審議されています。この危機感をグリーンコープに集う組合員と共有し、社会に向けて発信するために、号外として緊急声明を出すことにしました。

グリーンコープの原点は「不戦」です。グリーンコープは、「生命(いのち)」を何よりも大切に、「生命」を、「平和」を守るために、グリーンコープ運動を展開してきました。「平和」の礎があるからこそ、安全な食べもの、安心できる暮らしが考えられています。「生命」を脅かすような動きや社会状況に対して、その時々で理事会が必要と判断した場合、可能な方法で見解を表明してきました。中でも「不戦はグリーンコープの原点です」と「グリーンコープが願い、目指すもの(11条)」は、私たちの道標としてきたものです。「生命」を守るために、グリーンコープはこれから10年後も、20年後もずっと変わらぬグリーンコープであり続けたいと考えます。

特別決議

不戦はグリーンコープの原点です

―戦後50周年を迎えるに際して―

戦後50周年を迎えるに際し、私たちはまず過去の戦争の性格に関し、私たち自身と関係した各国及びその国民に対する責任の名において、それは間違いなく帝国主義戦争であり、植民地争奪戦争であったことを確認しておきたいと思えます。確かに、この戦争の結果、多くの植民地がその独立を獲得しました。しかし、日本が過去の戦争において、植民地の解放を意図した事実は本質的にありません。日本は、まず韓半島を、次に中国東北部(満州)を植民地化し、更に多くの植民地の獲得を目指して中国に、東南アジア、南洋諸島へと侵略を重ね、英・米・仏などの列強と侵略を受けた各国人民の抵抗の前に、敗北したのです。私たちは、この事実を率直に認め、なによりも韓国・朝鮮と中国の国家と国民に、そして日本の侵略に苦しんだすべての国民に、心からお詫びしたいと思います。

その上で、私たちは戦争を絶対的に否定する立場から、侵略戦争は悪であるが防衛戦争は善である、などとは金輪際考えないようにしたいと思います。なぜなら、たとえそれが「防衛戦争」であったとしても、「戦争は個々の戦闘における殺人の公認・奨励・強制である」という事実において、そこに何の相違もないからです。

こうした立場から、私たちは戦後50周年に際し、戦争について、そして平和について、私たちの基本的な考えを以下7点に要約し、ここに宣言します。

- ① 戦争は最大の暴力である。兵器と軍隊は最大の暴力装置である。私たちはこれを否定する。
 - ② 私たちは、平和と生命そのものには価値がない、平和と生命を賭して何を守るかに価値がある、という考えに、平和と生命そのものに価値がある、だから私たちは平和と生命を賭してでも平和と生命を守るうとするだろう、しかし、むしろそれ以上に、私たちが平和と生命を賭してでも平和と生命を守らねばならない状況そのものを否定する、守る行為さえ肯定しない、という考えを対置する。
 - ③ 私たちは、平和は部分的に腐る、という現実には耐える。
 - ④ 私たちは、法が暴力から人間を守る、しかし次の次元では法そのものが人間に対する暴力に転化する、悪循環である、という現実を見据える。
 - ⑤ 私たちは、暴力の根源を人間の本性に還元しない。
 - ⑥ 私たちは、暴力の根源は、完全な情報公開、徹底的な話し合い、機敏で責任ある対応、11条の構造的な欠陥にあると考える。
 - ⑦ 私たちは今、平和と生命は生協運動にこそ不可欠であると思う。生協運動の自主性も地域性も戦争という最大の国家性と職業性に消される。
- 最後に私たちは、戦争と暴力を日常的に無化していくために、私たち自身の中にある「人としての自己表現、特にその自己中心性(これがいつでも支配、圧政、侵略、特に正義に化ける)―その意味で戦争と暴力の本質的な原因―と日常的に、根気よく格闘していかなければならないことを、私たちの判断として確認しておきたいと思えます。なぜなら、こうした判断と格闘が多重で頑丈で信頼に値する分だけ、戦争と暴力の可能性は確実に私たちが遠ざかるはずだからです。
- 不戦はグリーンコープの原点です。

以上、特別決議します。

1995年6月13日 生活協同組合連合会グリーンコープ事業連合第三期通常総会

